

各科目群の設置目的および特色

キャリア科目

キャリア科目は、関東学院大学の学生として、経営学部の学生として、多様な社会の中で『私』、『私たち』を積極的に位置づけ、そのための現在と未来をデザインする目的で設置されており、[全学キャリア科目]と[学部キャリア科目]に大別される。

[全学キャリア科目]は、全学部共通の内容で、関東学院大学の学生としての現在と未来について考える科目群となっている。詳しくは、「キャリア教育科目について」を参照してほしい。

[学部キャリア科目]は、経営学部の学生として身につけてほしいキャリアに役立つ知識を学ぶ科目群となっている。

総合科目

総合科目は、地域志向科目、総合基礎科目、総合テーマ科目の3つの科目群から構成されている。学期を追って、系統的な学修ができるように配置されているので、各個人の関心や学科のどのコースに進路をとるかで補完され、充実した学修が期待できる。専門科目群と有機的に結びつけて欲しい。

地域志向科目では、本学の立地する神奈川の地域の現状・特色・課題等について様々な角度から学ぶ。神奈川は世界的な国際都市・観光都市・工業地帯を抱えると同時に、関東の代表的な農・漁・山村を抱える、日本の縮図ともいえる多様性ある地域である。この神奈川についての学びを通して、地域社会の多元性に関する理解を深めるとともに、地域の魅力や課題を発見する力を培う。

総合基礎科目では、大学での学修に必要な不可欠な基本的な要素を集中的に学修できる。「情報基礎演習」では、学修に必要な不可欠なパソコン操作や情報処理の基礎的能力を身につける。「文章を書く」では、レポートや論文作成の基本となる読解力、理解力、文章作成力、表現力を培う。大学生としての心構えやマナー、大学で学ぶために必要なノートテイキングや図表の活用といったスキル、教養の基本の一つである資料の読み込み、発表、レポート作成等の力を身につける場が「基礎ゼミナール」で、ここでの訓練が後の学修の足がかりとなる。

総合テーマ科目では、経営学とは異なる学問的視座からさまざまな人間活動に光を当て、複眼的な視点から社会的に提起される問題を学際的に明らかにしてゆく。「問題関心」の高度化を図るべく「心身と社会」「メディアと文化」「人間と環境」「国際化と異文化理解」のテーマごとに「全体の視点」「テーマと関連する問題」「具体的問題」と総体的に深めてゆく。

外国語科目

外国語科目は、異なる価値観を認めながら自分の意見を発表できる人格の形成、及び実用的な外国語運用能力の養成を目的に設置されている。外国語科目は[登録必須英語A][登録必須英語B][選択英語A][選択英語B][英語以外の外国語][外国人留学生選択必修科目]に大別される。

[登録必須英語A]は1年次、[登録必須英語B]は2年次に配置されている。いずれもプレイスメント・テストの結果に応じた習熟度別クラス編成により、無理なく各自の英語力を伸ばすことができるプログラムとなっている。

[選択英語B]は、各自の興味・関心、ニーズに応じて、1年次から4年次まで履修することができる。1、2年次に[登録必須英語A]や[登録必須英語B]と並行して履修し、さらに卒業要件最低単位数を満たした後も3、4年次に履修し続けることで、卒業まで語学力を伸ばし続けるよう心がけて欲しい。

[英語以外の外国語]ではドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、ハンガール語を学ぶことができる。各々の言語に「〇〇語入門1・2【※スペイン語、中国語、ハンガール語のみ】」「〇〇語会話入門1・2」(各科目1単位)がある。

初心者は、「〇〇語入門1・2」「〇〇語会話入門1・2」のうち1科目以上を履修する。

[外国人留学生選択必修科目]では、卒業要件として規定されている外国語12単位の代替科目として、「日本語理解」「日本語表現」(各科目1単位)と「論文・論説の日本語1・2」「日本語・言語と文化」「日本語1・2・3」(各科目2単位)を用意している。

経済学・法学科目

経済学科目には、経営学を学ぶ上で役立つ「経営のための経済学」を置いている。経済学的な考え方、金利や賃金、商品・サービスの価格決定等、経営学を学ぶ上で必要な経済学の基礎を学ぶことができる。

法学科目は、わが国の法の基本的な骨組みをなす6つの法典（憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法）のうち、**経営学と関連の深い商法の特別法である「会社法」と、「民法」に関する知識が得られる。その上、企業活動に深く係わりをもつ行政、労働関係の法規についても学ぶことができる。**

基礎的な法の分野を学びたい学生は「民法総則1・2」「会社法（概論）1・2」を履修するとよい。また、企業経営との関連性について深く学びたい学生は、「会社法1・2」を中心として、「労働法」「行政法総論1・2」を各自の関心に応じて履修するとよい。

経営学科目

■ 経営学科における2つのコースについて

経営学科目には、専門分野2コースとしてビジネスリーダーシップコース、流通マーケティングコースという2つのコースがある。「大学を卒業したらどのような職業に就くか」を考え、希望する職業に就くためには「大学でどのような科目を、どのような順序で学ぶか」が、はっきりとわかるように科目を配置している。これによって、学生は目標をもって、基礎的な科目から応用的な科目へ、順序よく体系的に学修できるようになっている。

経営学科目は、基本科目、応用科目、コース科目、実践系科目と会計人材育成プログラム科目との5つに大別される。

■ 基本科目

基本科目は、2年生になってどちらのコースを選択した場合でも経営学部の学生として必要な科目であり、「経営学の基礎」となる重要な科目群である。

企業と連携した実践的な学びを実現する「K-biz ベーシック1」、「K-biz ベーシック2」は、企業や社会が抱える問題を発見しそれを解決するビジネスプランを作成する科目である。「K-biz ベーシック1」（1年次春学期）では、ビジネスプランを作成するために必要最低限の知識を学習し、「K-biz ベーシック2」（1年次秋学期）では、少人数のゼミナール形式で「K-biz ベーシック1」で学習した内容を基にグループ単位でビジネスプランを作成する。

「K-biz ベーシック2」は、「K-biz ベーシック1」での経験や反省、気づきを2年次以降の理論的学習や実践的学習に活かすことを目的としている。また、グループワークや発表会においてそれぞれの役割をしっかりと果たすことが評価の前提となるので、発表会も含めて毎週の授業に出席し、活動に積極的に参加することが強く求められる。

■ 応用科目

応用科目は、基本科目を受けて3～8セメスターに配置される、「基礎の発展」という位置づけの科目である。

■ コース科目

コース科目には、各コースの教育目標が達成できるように科目が配当されている。

ビジネスリーダーシップコース科目

事業活動を継続し、経営戦略を企画・創造する知識・技術を修得し、企業人に求められるリーダーシップ、意思決定力、判断力を持った人材を育成するコースである。

組織の中でリーダーシップを発揮し、組織運営のあり方、財務・経営情報に関する知識を修得し、問題解決能力の向上を図る。実践ビジネス科目を中心に、主体的な学びを通してリーダーシップを身につけると共に、資料収集、分析、企画、コミュニケーション能力を涵養する。

このコースでは、製造・流通・サービス企業全般の総合職、経営コンサルタントなど経営をサポートする仕事や起業家、事業後継者などの進路を想定している。

流通マーケティングコース科目

消費者ニーズの調査、商品・サービスの企画・提供から消費者への訴求、効率的な流通ネットワークの構築、情報技術の活用に至るまで、流通・マーケティングや観光・ホスピタリティのマネジメントに関する総合的な知識を修得し、それぞれの分野で活躍できる人材を育成するコースである。

マーケティング関連科目と流通関連科目を中心として、流通・マーケティング・マネジメントに関する総合的な知識の修得を図る。さらに、主体的な学びを通して、資料収集、分析、企画、コミュニケーション能力を涵養し、リーダーシップを身につける。

このコースでは、企業の商品企画・開発・広報・営業担当者、行政や商工会議所でまちづくりを支援する部門、広告代理店などの進路を想定している。

■ 実践系科目

実践系科目では、より実務的な観点からビジネスについて学ぶ科目や資格取得に関わる科目を開講している。

例えば「ビジネスプラン」と「神奈川の中小企業」は、高度なビジネスプランの作成や神奈川の中小企業の経営戦略とビジネスモデルを学ぶ科目等がある。

資格取得に関わる科目は、各種資格の知識や実務的な能力を身につけることを目指している。

■ 会計人材育成プログラム科目

会計人材育成プログラム科目は、税理士、公認会計士等の資格取得と税務・会計の専門知識を活かした職業に就くことを目指す学生のための科目群である。1～8セメスターに「簿記および演習1・2」、「簿記検定(2級)」を配置し、日商簿記2級の資格取得を、3～8セメスターに、「連結会計」、「財務会計基礎1・2」、「財務会計応用1・2」を配置し、簿記1級や税理士資格を目指す。

専門ゼミナール

ゼミナールは、15名程度の少人数形式で行う演習科目である。2年次春学期(3セメスター)に希望するゼミナールに応募し、卒業までの2年半にわたり、いずれかのゼミナールに継続して所属する。ゼミナールの選択はコースに関係なく、すべてのゼミナールの中から希望するゼミナールを選択できる。しかし、ゼミナールには定員(15名程度)があり、希望者が多い場合には選考が行われ、所属を認められない場合もある。選考は面接の他、1年次の成績等が参照される場合もある。

ゼミナール1は登録必須科目であり、必ず履修登録をしなければならない。つまり、必ずいずれかのゼミナールに所属しなければならない。もし、選考によって所属ゼミナールが決まらなかった場合は、抽選により所属先が決められる。

ゼミナールでは学生は週1回のゼミナールに参加して、テキストを読み、またそれぞれの課題について資料の整理や分析を行い、4年次には卒業論文を作成する等の活動を行う。ゼミによっては各種の課外活動やゼミナール大会に参加する。このようにゼミナールには2年半所属し、自分の興味に基づきより深く専門的に学ぶ場であることから経営学部における教育・研究の中心的存在であるといえる。

履修科目決定モデル

1. はじめに

大学では自身の学びたい分野・科目を選択し、かつ4年間で経済学部が定める卒業要件を満たせるよう計画的に履修する必要があります。1年次においては、以下のモデルおよびシラバスを参考に時間割を組み立ててください。なお、あくまでもモデルですのでご自身の興味・関心に応じて、モデルに掲載されていない科目を履修してもかまいません。

2. 経営学部

(1) 履修科目決定のポイント

- ①春学期は1セメ配当および1-2セメ配当、1-8セメ配当、秋学期は1-2セメ配当および1-8セメ配当、2-8セメ配当科目を履修できる
- ②春学期、秋学期とも最大で22単位まで履修できる
- ③クラス指定された科目（登録必須科目）を軸にする
クラス指定された科目は、必ず履修しなければならない科目です。KGU ポータルへログインし、画面上部メニューから『履修時間割』を確認すると各自のクラスが記載されています。

20xx 春学期時間割		春学期		秋学期		
	月	火	水	木	金	土
1	KGUキャリアデザイン入門1		Kbizベーシック1			
2				基礎ゼミナール		
3						
4		英会話1		フレッシュヤーズ・イングリッシュ1		
5						

<科目の名称について>

マーケティング1 A
科目名 クラス名

④専門科目は、基本科目を優先する

専門科目については、1セメ（1年次春学期）、2セメ（1年次秋学期）ともに、基本科目を優先して履修します。

⑤総合科目は、1セメは総合基礎科目、2セメは総合テーマ科目を優先する

卒業要件を満たすためには、専門科目だけでなく、総合科目も履修しなければなりません。1セメは総合基礎科目を、2セメは総合テーマ科目を優先的に履修すると良いでしょう。

⑥春学期をベースに秋学期を考える

春学期は、自らの興味関心を考えつつ、クラス指定科目を軸に、その前後の時間帯に、専門科目や総合科目を配置しながら時間割を組みます。秋学期は、春学期に履修した科目と同じ曜日・講時にあたる科目を選択すると時間割を組みやすいといえます。春学期に履修した科目の担当者は秋学期も同一曜日講時に別の科目を担当していることが多いので、その科目を履修すると良いでしょう。例えば、春学期に月曜5講時の「簿記1C」(A先生)を履修した場合、秋学期も同じ月曜5講時の「簿記2C」(A先生)を履修するといったイメージです。もちろん、春学期、秋学期で全く別の科目を履修しても構いません。例えば、春学期に月曜5講時の「簿記1C」(A先生)を履修して、秋学期は火曜2講時の「簿記2D」(B先生)を履修するといったことも可能です。

※「簿記1A」「簿記1B」などの科目名の後のローマ字は同じ科目ですが、クラスが異なることを意味します。

⑦1日の履修科目数は3科目前後にする

大学の授業は、予習復習を前提に成り立っていますので、1日にあまり多くの科目を履修するのは好ましくありません。クラス指定科目の配置にもよりますが、1日3科目程度を目安にすると良いでしょう。

(2)履修科目決定ステップ

①春学期

〔ステップ1〕クラス指定科目

経営学部は次の科目がクラス指定されています。これらの科目は指定されたクラスの履修登録を行わなくてはなりません。指定された全ての科目を履修登録すると、春学期に6科目8単位の履修科目が決定します。

【春学期】 合計8単位

- ・英会話1または英会話(上級)1 (1単位)
- ・フレッシューズ・イングリッシュ1またはフレッシューズ・イングリッシュ(上級)1 (1単位)
- ・基礎ゼミナール (2単位)
- ・KGUキャリアデザイン入門1 (1単位)
- ・KGUキャリアデザイン入門2 (1単位)
- ・K-biz ベーシック1 (2単位)

〔ステップ2〕経営学科目の基本科目

次に、1セメスターから開講されている基本科目を選択しましょう。経営学科目では「基本科目」として「現代企業1」、「簿記1」、「現代流通1」の3科目が開講されています。基本的には、これら3科目6単位を履修するとよいでしょう。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、「簿記1」ではなく「簿記および演習1(3単位)」を履修することが望ましいでしょう。なお、「簿記1」と「簿記および演習1」の同時履修はできません。

〔ステップ3〕総合基礎科目

総合科目の「総合基礎科目」の中で興味のあるものを、春学期に開講されている科目から3科目選択してみましょう。なお、1年生のみの開講科目である、「文章を書く」と「パソコン入門」は今後の学習を円滑に進めるためにも、ぜひ履修して欲しい科目です。

※上記〔ステップ3〕までで、春学期20単位が決まりました。残る2単位は「地域志向科目」を履修してみましょう。「地域志向科目」は、本学が立地している神奈川の地域の現状や特色、課題などについて様々な角度から学ぶことができます。卒業までに必ず2単位を修得しなければなりませんので、1年生から履修しましょう。また、語学に興味がある方は、第二外国語を履修してもよいでしょう。

なお、クラス指定科目の配置の関係で、実際には、ここまでで20単位分履修できないこともあるでしょうから、その部分については、『履修要綱』の「経営学部 科目区分表」を見ながら、1年次に配当されている科目から何を履修するかを考えてください。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、〔ステップ3〕までで春学期21単位が決まりました。「地域志向科目」や「第二外国語」などの1単位の科目を履修して22単位まで履修しましょう。

②秋学期

〔ステップ1〕 クラス指定科目

経営学部生は次の科目がクラス指定されています。これらの科目は指定されたクラスの履修登録を行わなくてはなりません。指定された全ての科目を履修登録すると、秋学期に3科目4単位の履修科目が決定します。

【秋学期】 合計4単位

- ・英会話2または英会話（上級）2 （1単位）
- ・フレッシューズ・イングリッシュ2またはフレッシューズ・イングリッシュ（上級）2 （1単位）
- ・K-biz ベーシック2 （2単位）

〔ステップ2〕 経営学科目の基本科目

次に、経営学科目の基本科目を選択しましょう。経営学科目では「基本科目」として「現代企業2」、「簿記2」、「現代流通2」、「経営管理1」、「原価計算基礎」、「会計1」、「コンピュータとインターネット1」、「コンピュータとインターネット2」、「マーケティング1」、「経営組織」の10科目が開講されています。これら9科目の中から春学期に履修した科目のペア科目（「現代企業2」、「簿記2」、「現代流通2」）を中心に、5科目10単位分を履修するとよいでしょう。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、「簿記2」ではなく「簿記および演習2（3単位）」を履修することが望ましいでしょう。「簿記および演習1」を履修した学生は、「簿記2」を履修することはできません。

〔ステップ3〕 総合テーマ科目

総合科目の「総合テーマ科目」の中で興味のあるものを秋学期に開講されている科目から3科目6単位、選択してみましょう。

※上記〔ステップ3〕までで、秋学期20単位が決まりました。残る2単位は、「キャリア科目」、「基本科目」、「総合基礎科目」、「総合テーマ科目」の中から『履修要綱』の「経営学部 科目区分表」を見て、1年次に配当されている科目のシラバスを読んで受講したいと思った科目を履修しましょう。春学期に第二外国語を履修した場合は、春学期に履修した科目のペア科目を履修するのもよいでしょう。

※「会計人材育成プログラム」を目指す人は、〔ステップ3〕までで秋学期21単位が決まりましたので、春学期同様に「地域志向科目」や春学期に履修した「第二外国語」のペア科目などの1単位の科目を履修して22単位まで履修しましょう。